



「語彙力」を身につけ、表現力を豊かに…

校長 平岡 淳

「12歳までに知っておきたい語彙力図鑑」という本を家族が買ってきたので、手に取り読んでみました。この本の中の「やばい」という言葉について書かれているページを眺めていると、付けていたテレビからも「やばい」という言葉が聞こえてきました。テレビでは、若いタレントが料理を食べて「やばっ」と言っています。料理を食べておいしいという感想を言っているようです。そのタレントはそのあと何回も、「やばっ」というコメントを繰り返していました。読んでいた本に目を戻すと『『やばい』のもともとの意味は、危ないとか具合が悪いことを意味する『やば』からきていて、江戸時代では泥棒が自分の身に危険が迫っているときに、仲間たちにその危険を伝える秘密の言葉として使っていた』と書いてありました。「やばい」という言葉はとっっても危険で悪い状態のときに使う言葉で、良い意味での「やばい」が使われるようになったのはつい最近のことです。テレビでコメントしていた若いタレントのように、おいしい料理を食べて「やばい」を使うことも令和の現代では、人に伝わり、良い意味の言葉として定着してきているのですが、「おいしい」とか「うまい」とか「最高」とか「絶品」とか「すばらしい」とか別の言葉で言い換えることができる力も必要だと感じました。

また別の日、「すごい」という言葉について読んでいた時です。テレビ画面では、駅伝が放送されていました。とっっても速いスピードで走っている選手に「ものすごい速さです」と言っていました。この「すごい」を言い換えると「段違いの速さ」「桁違いの速さ」などと言い換えられると本には書いてありました。「すごい」を言い換える言葉は他には「素晴らしい」「お見事」「あっぱれ」なんて言葉もあります。

日本語には一つの言葉に対して同じような意味の言葉がたくさんあります。同じ場面でもたくさんの言葉が使えることがあります。そんな言葉をたくさん覚えて、その場にあった言葉を上手に使えると、とても素敵だと思います。

「12歳までに知っておきたい語彙力図鑑」を買って読んでいた私の家族は25歳の大人にはなっていますが、これからたくさんいい言葉を覚えて素敵な社会人になってほしいと思いました。中学生年代の生徒においては、たくさんの言葉を覚えることがとても大切で、どんどん頭の中に覚えたことが入っていく時でもあります。言葉を覚えるには本を読むことがとてもいい手段です。頭の中にインプットした言葉を、次は口からアウトプットして使うことが語彙力を伸ばすために有効です。

子どもたちを取り巻く言語環境は情報化社会の中で日々変化しています。幼児期までの言語環境は家族が主でしたが、小・中学校年代になるとメディアが大きな比重を占めていきます。そんな中でも良い本に触れたり、新たな体験をしたりすることでいろんな言葉を覚えていきます。子どもにとって良い言語環境に触れさせていくことがとても大切だと考えています。

※参考文献「12歳までに知っておきたい語彙力図鑑 斎藤 孝・著」